

箱根駅伝	2025 年第 101 回箱根駅伝観戦資料	2024 年 12 月 30 日 岡田一彦
------	-----------------------	--------------------------

1. 10000m、ハーフの記録による出場校戦力分析 (出典：箱根駅伝公式サイト)

箱根駅伝の距離(217.1km)とハーフ 10 人の合計距離(21.0975km)は、ほぼ同じです。優勝争いはもちろん、特にシード権争いは大混戦になりそうです。ハーフトップの駒澤は、10000m の平均記録では最下位。箱根に特化したトレーニングを重視してきたようです。ハーフ 7 位の中央は 10000m がトップ。秋までにスピードを強化してから、箱根に向けたトレーニングに移行。立教は、年間を通して専らハーフを強化。これまでとは違う取り組みの大学が見られ、注目しています。(敬称略)

No.	大学名	ハーフ上位10人の合計記録	~ 60:59	61:00~ 61:59	62:00~ 62:59	63:00~ 63:59	16:00 ~	100 経験	注目選手	10000m上位 10人の平均
1	青山学院	③10:24:06		3	7	5		7	太田、鶴川、若林、黒田	②28:20:04
2	駒澤	①10:20:05	1	3	6	1	2	4	篠原、佐藤、山川、伊藤	⑪29:04:37
3	城西	④10:31:31			4	8	4	6	キムタイ、齋藤、平林	⑥28:34:40
4	東洋	⑧10:30:40		1	3	7	4	6	緒方、小林、梅崎、石田	⑧28:39:49
5	國學院	②10:21:26	1	2	6	4	1	6	平林、山本、高山、上原	③28:22:25
6	法政	⑩10:31:02			3	8	5	6	宮岡、大島、武田、小泉	⑩28:56:46
7	早稲田	⑫10:31:22		2	3	2	9	6	山口、石塚、伊藤、工藤	⑫28:48:58
8	創価	④10:27:36	★	3	2	8	1	7	ムチーニ、吉田、吉田	④28:25:92
9	帝京	⑪10:31:15			1	11	4	3	福田、山中、島田、浅川	⑩28:41:52
10	大東文化	⑥10:27:53		2	3	5	3	6	西川、棟方、キプロップ	⑤28:33:17
11	立教	⑬10:37:29			2	5	8	8	國安、馬場、林	⑬29:00:00
12	専修	⑨10:37:47		1		5	9	一	マイナ、上山、新井	⑨29:03:43
13	山梨学院	⑫10:38:00	1	★		5	9	6	ムトウク、徳田、村上	⑪28:59:59
14	日本体育	⑮10:33:18			3	4	8	6	山崎、田島、住原、山口	⑬28:47:27
15	中央学院	⑤10:27:43	1		5	6	4	6	吉田、近田、堀田、柴田	⑨28:40:61
16	中央	⑦10:30:31			4	8	4	5	溜池、吉居、本間、岡田	①28:15:61
17	日本	⑯10:37:14	1			4	11	7	キップケメイ、安藤、鈴木	⑦28:38:59
18	東京国際	⑨10:30:50	1★	1	7	5		一	エティーリ、菅野、木村	⑫28:44:79
19	神奈川	⑳10:41:17			1	1	14	3	宮本、大岩、中野、三原	⑱29:03:14
20	順天堂	⑬10:31:28		2	2	3	6	3	浅井、海老澤、吉岡、川原	⑪28:41:73
21	学生連合	⑯10:35:57			2	3	11	一	片川、古川、小山、森川	⑮28:52:78

注1 ハーフマラソンの公認記録のない選手がいるため、人数が16名になっていない大学があります。

注2 登録留学生在が2人いる大学は、記録の良い選手の記録を採用。記録の悪い選手を★で表記しました。

【優勝争いは、青山学院、駒澤、國學院の三つ巴】

お互い遜色のない選手層で、この三校が抜きん出ています。その中でも、昨年の経験者が多い青山と國學院が拮抗。駒澤は、経験者が4名で、故障明けの佐藤に不安があります。いずれにせよ、10人のピーキング(調整)成功した学校が勝利するでしょう。しかし、こればかりは当日走ってみなければ分かりません。

【ダークホースは、創価と中央】

創価は、昨年の経験者が8名残っています。留学生のムチーニと吉田響の好走で優勝争いに絡んでくる力があります。10000m トップの中央は、そのスピードを20km以上でも活かせれば、不気味な存在になります。

【大混戦のシード権争い】 昨年 10 位 11 時間 00 分 42 秒 11、12 位(同タイム)11 時間 01 分 52 秒

ハーフ上位 10 人の合計タイムを比較すると、7 位から 14 位までの差は僅か 60 秒、そこに 8 校がひしめく大混戦です。毎年、エースの凡走がある一方、期待以上の好走をして、救済主となる選手も出てきます。

●過去3年の下克上は2チーム…101回大会の下克上は2~3チームか？

2022年 98回大会 獲得（中央、法政） 喪失（東海、早稲田）
2023年 99回大会 獲得（早稲田、城西） 喪失（東京国際、帝京）
2024年 100回大会 獲得（帝京、大東文化） 喪失（順天堂、中央）

●シード権圏内もエースの凡走でシード権喪失もあります

城西はキムタイが総合戦力を押し上げています。中央は、総合戦力で一步リードしています。早稲田は、戦力の評価は高いのですが、このところエース格の誰かが凡走をして、期待を裏切っています。10000m27分台の石塚陽士の復調と、山の名探：工藤慎作が鍵を握っています。

●シード権ボーダーライン…シード権喪失もあります

東京国際は、スーパー留学生と言われているムチーニの存在が大きいです。ハーフの記録も良いので、シード権獲得の有力候補です。大東文化は、絶対的エースは不在ですが、総合戦力は上位です。真名子監督の仙台育英高校でのきめの細かい指導が大学でも生きれば、堅実な走りが見られるでしょう。

東洋、法政、立教は、絶対的エース不在。シード権獲得には10人の総合力が必要で、複数の凡走は許されません。東洋は、これまでの経験値が力になります。法政は、「1年間かけて質量とも、みっちり走り込んできた」とあり、ピーキングが鍵を握っています。立教は、駒澤大学で箱根を走った高林監督が就任してから、着実に力をつけています。昨年の経験者が8人もいますが、記録面で見劣りします。

帝京は、出雲駅伝、全日本大学駅伝でシード権を獲得して力をつけていますが、抜きん出たエース不在です。1区のスปีドレース、2区でのエース対決で遅れをとると、シード権獲得は難しいでしょう。中央学院は、絶対的エースの吉田礼志と、ハーフ1時間02分台が6人います。往路で流れに乗れば、そのまま行けそうです。順天堂は、浅井、海老澤に加え、吉岡大翔が調子を上げていますが、復路に大きな不安があります。

●シード権圏外

専修、山梨学院、日本体育、神奈川、日本は、総合戦力で他より劣ります。日本は予選会1位のキップケメイの好走があっても、シード権獲得までは届かないでしょう。

●関東学生連合(オープン参加)

チームとしての練習が難しく、15位までに入ると上出来です。個々人の走りに注目しましょう。

【高速化…大会記録更新はなるか？】

恵まれたトレーニング環境、優秀な指導者、シューズの開発などを背景に、箱根駅伝の高速化が顕著になっています。現在の大会記録は、2019年第95回大会以降に更新されました。今年の登録選手は、27分台がこれまでの11名から19名に増加、半数を超える176名が27、28分台です。有力校の層も厚くなり、記録面からは、大会記録の更新は十分期待できます。

とは言え、昨年の青山学院の驚異的な記録を更新するのはそんなに簡単ではありません。特に往路の記録更新は至難の業です。箱根駅伝は記録ではなく、順位の勝負です。白熱したレースが記録更新を産みます。

大会記録 総合 青山学院 217.1km：10時間41分25秒(2024年第100回)
往路 青山学院 107.5km：5時間18分13秒(2024年第100回)
復路 青山学院 109.6km：5時間21分36秒(2022年第98回)

区間記録 1区 21.3km 吉居大和(中央) 1時間00分40秒(2022年第98回)

2区 23.1km	イエゴン・ヴィンセント(東京国際)	1時間 05分 49秒(2021年第97回)
3区 21.4km	イエゴン・ヴィンセント(東京国際)	59分 25秒(2020年第96回)
4区 20.9km	イエゴン・ヴィンセント(東京国際)	1時間 00分 00秒(2023年第99回)
5区 20.8km	山本唯翔(城西)	1時間 09分 14秒(2024年第100回)
6区 20.8km	館澤亮次(東海)	57分 17秒(2020年第96回)
7区 21.3km	阿部弘輝(明治)	1時間 01分 40秒(2020年第96回)
8区 21.4km	小松陽平(東海)	1時間 03分 49秒(2019年第95回)
9区 23.1km	中村唯翔(青山学院)	1時間 07分 15秒(2022年第98回)
10区 23.0km	中倉啓敦(青山学院)	1時間 07分 50秒(2022年第98回)

2. レース展望

【気象条件・・・12月30日現在の天気予報】 概況・・・寒波が発生しており、両日とも極寒

1月2日 千代田区：-2～13℃、降水 20% 箱根町 -2～9℃ 降水 20%

1月2日 千代田区：-2～11℃、降水 30% 箱根町 -2～8℃ 降水 30%

●風が強いと、低体温症（深部体温低下）、痙攣などが起きる恐れがあります。（特に、5区6区）

【ピーキング：大会までのコンディショニング】

●ピーキング（調整）・・・当たり前のことですが、コンディション調整に成功したチームが目標を達成します。どのチームも万全を喫して取り組んでいます。こればかりは当日走ってみなければ分かりません。特に、エースの失敗は大きな痛手となります。中央は、昨年、大会直前に14名が原因不明の発熱で、上位の力を有しながら、シード権獲得がなりませんでした。

【区間エントリー・・・12月29日】

少しでも他校の情報を得るために、偵察メンバーをエントリーしています。例年、往路で20名前後、復路で30名前後の選手変更がされています。どのチームも往路重視の布陣です。

青山学院は、太田蒼生と黒田朝日のどちらが2区を走るかが注目されます。鶴川を3区、若林を5区に配置し、強力な布陣で往路優勝を狙っているようです。駒澤は、山川拓馬と佐藤圭汰の配置に注目、故障明けの佐藤の走りが気になります。國學院は2区平林清澄、3区山本歩夢にエースを投入しています。留学生は、順当に2区に起用されています。往路優勝を第一目標にしている創価は、吉田響、ムチーニの両エースを補欠に入れています。中央は、10000m27分台の溜池一太（2区）と本間颯（3区）を往路に配置、もう一人の吉居駿恭は復路に起用されると思われます。

学生連合は、東大大学院の古川大晃が補欠になっています。彼が1区に起用されれば、間違いなく高速レースになるのですが、残念です。当日のメンバー変更に期待します。予選会学生連合トップの小山洋生（筑波）は3区、好走を期待しています。

毎回話題になる5区は、昨年の山のスペシャリストが殆ど残っています。若林宏樹(青山学院)、工藤慎作(早稲田)、山本羅生(立教)、弓削征慶(山梨学院)、柴田大輝(中央学院)。緒方滯那斗(東洋)、上原琉飛(國學院)は補欠登録。3年連続の区間新記録を期待しましょう。

【優勝争い】

青山学院、駒澤、國學院、創価の4校が優勝を目標にしています。青山学院、駒澤、國學院はお互いを牽制しながらのレース運びとなるでしょう。先手必勝を掲げる創価が、1区と2区のムチーニで積極的に勝負をかけてくるでしょう。2区では、エティーリ(東京国際)、キップケメイ(日本)、ムトゥク(山梨学院)、キムタイ(城西)等、留学生が絡んできます。ここで、青山学院、駒澤、國學院の三校がどう対応できるかが優勝の行方を左右する最初の山となります。

【各区間の展望】 各区間の1位と最下位のタイム差(100回は20位とのタイム差)

例年、どの学校も往路重視のオーダーになっています。各区間の首位と最下位のタイム差は、往路の方が大きく、9区と10区を堅実に走った学校がシード権を獲得しています。

どのチームの監督も、幾つかのレースパターンを想定して、襷を貰ってから渡すまでの個々の選手の走力に応じたペースメイクを指導していると思います。それでも、目の前や直ぐ後ろに選手がいると、監督の指示通り展開しないことが多々あります。思わぬ力が出たり、力を発揮できないまま終わったり、だから面白いのです。選手たち一人一人の個性の走りを応援し、楽しみましょう。

区間記録 100回 99回 98回 の1位と20位のタイム差

●1区 21.3km (1時間00分40秒) 1分51秒 1分45秒 4分07秒

帰山侑大(駒澤)1:01:59、堀田晟礼(中央学院)1:02:14、宇田川瞬矢(青山学院)1:02:37、他03分台が10人エントリー。後村光星(國學院)は1:03:43。お互い牽制し合うレース運びになりそうです。仕掛け所は、早ければ中間点当りから、遅ければ残り3kmの六郷橋手前から、激しい順位争いになります。

スローペースになると、首位と最下位の差は2分(約600m)以内に取っています。98回大会は、吉居大和(中央)が飛び出してハイペースの展開になり、4分以上(約1400m)の差が付きました。

学生連合の古川大晃(東大大学院)が走れば、高速レース必死でした。

●2区 23.1km (1時間05分49秒) 3分47秒 5分13秒 4分51秒

各校のエースが揃いました。青山学院は太田蒼生か黒田朝日のどちらかに、創価も吉田響かムチーニに変更されるでしょう。最長区間で、約1300~1700mの差が付いています。

通常、1kmを2分40~50秒のペースで入りますが、50m(約8.5秒)差~100m(約17秒)差だと、目の前に選手がいるので、追いかける選手はオーバーペースになりがちです。特に留学生は一気に追い付こうとします。日本選手の多くは、監督の指示通りの設定ペースで入っています。この前半の入り如何が、後半14km地点の権太坂や20kmからの戸塚の壁の走りに影響してきます。去年のようなエース同士の併走があれば、新記録が臨めます。日本人と留学生の白熱した対決も見ることができるでしょう。

●3区 21.4km (59分25秒) 4分46秒 2分49秒 4分55秒

繋ぎの区間と言われていましたが、エースを起用できる層の厚い学校も出てきました。前半は長い下り坂、12kmを過ぎて海岸線に出ると、強風や強い日差しに当てられ、ブレーキの恐れもあります。余裕のある選手は、正面に見える大きな富士山を見て、更に力が湧くでしょう。約950~1600mの差が付いています。

鶴川正也(青山学院)、山本歩夢(國學院)、本間颯(中央)、海老澤憲伸(順天堂)等が、60分切に挑むでしょう。昨年は太田蒼生(青山学院)が佐藤圭汰(駒澤)の対決を驚異の区間新記録で制し、駒澤の勢いをなくすと共に、優勝の流れをつくりました。

●4区 20.9km (1時間00分00秒) 3分10秒 6分06秒 5分08秒

エース級の起用で、優勝やシード権の獲得の大きな流れをつくることができます。昨年は佐藤一世(青山学院)が区間新で、ここで優勝候補の駒澤を突き放しました。1000~2000mの大きな差が付いています。前半遅れたチームは、遅れを挽回できる区間になるのではないのでしょうか。

海岸線で小刻みなアップダウンが続き、酒匂川を過ぎた残り3kmから気温が下がってきます。中継点は、鈴廣蒲鉾店の敷地、前に選手が見える範囲で襷を渡せると、5区の選手の励みになります。

●5区 20.8km (1時間10分04秒) 5分51秒 6分56秒 6分26秒

2年連続で区間記録が更新され、高速化が進んでいます。若林宏樹(青山学院)、工藤慎作(早稲田)、山本羅生(立教)、弓削征慶(山梨学院)、柴田大輝(中央学院)。緒方滯那斗(東洋)、上原琉飛(國學院)は補欠登録。昨年の経験者は殆どがエントリーされています。3年連続の区間新記録を期待しましょう。

900~2000mの差が付いており、大きな順位の入れ替えが多くみられます。

最近、山のスペシャリストを養成する学校や自ら山を希望する選手が出てきており、2年連続で区間新記録が出ています。高速化の流れは今年も続きそうです。低温、強風下では、低体温症や脱水症状で、大きなアクシデントが起きる心配があります。

●6区 20.8km (57分17秒) 3分00秒 5分01秒 3分14秒

ここで7割り方勝負が決まります。1km2分40秒前後の高速スピードで下っていきます。湯本から残り3kmは緩やかな下りですが、脚のダメージを受けた選手の大きなペースダウンがあります。

10分以上差の学校は一斉スタートとなります。1100~1900mの差がつくので、遅れたチームは、悪い流れをここでリセットできる重要な区間です。

昨年は10人が60分を切りました。経験者が5人エントリーしており、野村昭夢(青山学院)②58分14秒、浦田優斗(中央)⑤58分37秒、川上翔太(創価)③58分16秒の3人が60分切です。

●7区 21.3km (1時間01分40秒) 3分56秒 3分53秒 3分43秒

酒匂川を越えると、気温が上昇します。海岸線に出てからで小刻みなアップダウンが続き、リズムの維持が難しくなります。8区と合わせ、シード圏内の流れを造ることが求められます。

エントリーは、昨年の経験者は誰もいず、新人や初出場の選手ばかりです。ここ3年ほぼ同じ約1300~1400mの差が付いています。

●8区 21.4km (1時間03分49秒) 3分11秒 2分44秒 4分47秒

9kmの浜須交差点を過ぎると、延々9km上りが続きます。15kmの遊行寺の急坂は700mもあります。この中継所当りから、繰り上げスタートも出てきます。優勝争いやシード権争いの行方が見えてくる区間で、ここでの取りこぼしは致命的になります。約900~1600mの差が付いています。

塩出翔太(青山学院)と小田伊織(城西)が2年連続で走りますが、昨年は、塩尻が小田との差を2分25秒開き、青山学院完勝の流れをつくりました。小田のリベンジを期待しましょう。

●9区 23.1km (1時間07分15秒) 3分13秒 6分59秒 7分29秒

復路のエース区間です。入りが下り坂で、オーバーペースにならない注意が必要です。シード権争いの行方も見えてきてきます。往路のエース区間と比較すると、エースの数も少なく、区間1位と最下位の差は復路の方が大きくなっています(約1100~2500m)。エースには計算通りの走りが求められます。

昨年に続き、吉田周(東洋)②1時間09分20秒、吉田凌(創価)⑤1時間10分44秒、小林大晟(帝京)③1時間09分30秒がエントリーしています。早稲田は10000m27分台の石塚陽士の復活が鍵を握っています。

●10区 23.0km (1時間 07分 50秒) 2分 23秒 7分 16秒 5分 08秒

日本橋を通ることで距離が長くなり、ここでの逆転の可能性も高くなっています。基本的には、安定した選手が起用されています。

2021年の第97回大会は、創価が3分19秒(約1100m)の大差で襷を繋ぎましたが、アンカーが大ブレーキ。2位駒澤が石川拓慎の好走で、52秒(約300m)差をつけて逆転優勝しました。

3. 一抹の不安、懸念、そして期待

【マスコミ(特に、日本テレビ)の過剰な報道】

マスコミの箱根駅伝に関する報道は、他のスポーツと比べ過剰過ぎます。日本のトップランナーが揃う、元旦のニューイヤー駅伝よりも遙かに大きく取り扱われています。優勝候補の主力選手は、オリンピックのメダリストに匹敵する報道がなされています。これらの過剰な報道は、監督や選手たちの自信や励みになるでしょう。関係者や駅伝のファン以外が関心を持つようになるでしょう。一方では、期待や関心の大きさを負担に感じる選手や、大きなプレッシャーに負けて力を出し切れずに終わった選手も出てくるでしょう。

1996年第72回大会で、山梨学院の2区エース中村祐二が、アキレス腱痛で途中棄権。2002年第78回大会で、法政の2区エース徳本一善がふくら脛の肉離れで、途中棄権しました。故障を隠して走った彼らに対する誹謗中傷は酷いものでした。チームへの罪悪感が長い間抜けなかったようです。このような結果に対しては、マスコミは責任を取ってくれません。現状では、同じようなケースが起きても不思議はありません。

【藤田敦史監督(駒澤)の立場】

駒澤は昨年、2015年からコーチを務めていた藤田敦史氏が監督に就任しました。それに伴い、総合優勝を8回達成した大八木弘明氏は、国際大会を目指す選手を育成する総監督に就任しました。篠原倅太郎、佐藤圭汰は、主に総監督の下でトレーニングを積んで今回の箱根駅伝に臨みます。主力の二人を100%把握できなかった監督は、不安を感じていないのだろうか気になります。大八木氏は藤田監督の恩師なので尚更です。

【平林清澄選手の懸念】

ある資料によると、平林清澄の身長は168cm、体重43kg。BMI15.2は、世界のトップランナーに負けないランニングエコノミーの持ち主です。2024年2月の大阪マラソンを2時間06分45秒、圧巻の初マラソン日本記録で優勝しました。その後も、自信と共に好走を続けています。言動も自信満々です。

現在の彼は、究極に研ぎ澄まされた精巧な針のように仕上がってきていると思います。それが気になります。絶好調を長期間継続することは大変です。目に見えない疲労があるのではないかと心配です。大会当日のコンディション如何で、ポキンと折れてしまう事もあるのではないかと気になっています。

【箱根から世界へ・・・マラソンの父・金栗四三の思い】

近年は、箱根駅伝をステップに、世界を目指す指導者や選手が増えてきました。いち早く取り組んできた原監督率いる青山学院の太田、黒田、若林、塩出、白石が、そして、梅崎(東洋)、平林(國學院)、早稲田、帝京、順天堂などの選手も、別府大分毎日、大阪、東京のマラソンに出場する計画をたてているようです。

留学生と対等に戦える選手も増えてきました。今年は、10000m27分台のエントリーが19名もいます。青山学院3名、駒澤2名、國學院1名で、エース対決や勝負区間配置での走りを注目しましょう。

箱根駅伝の順位を予想してみましょう

第101回箱根駅伝の順位予想

No.	ハーフ上位10人の合計記録		上位10名10000の平均		100回順位 予選会順位	100回 経験者	101回大会 目標	予想と結果		
			大学	記録				岡田予想	予想欄	結果
1	駒澤	10:20:05	中央	28:15:61	青山学院	7	優勝	青山学院		
2	國學院	10:21:26	青山学院	28:20:04	駒澤	4	優勝	國學院		
3	青山学院	10:24:06	國學院	28:22:25	城西	6	7位	創価		
4	創価	10:27:36	創価	28:25:92	東洋	6	シード権	駒澤		
5	中央学院	10:27:43	大東文化	28:33:17	國學院	6	優勝	中央		
6	大東文化	10:27:53	城西	28:34:40	法政	6	5位以内	東京国際		
7	中央	10:30:31	日本	28:38:60	早稲田	6	3位	大東文化		
8	東洋	10:30:40	東洋	28:39:49	創価	7	優勝	城西		
9	東京国際	10:30:50	中央学院	28:40:61	帝京	3	3位	中央学院		
10	法政	10:31:02	帝京	28:41:52	大東文化	6	5位以内	早稲田		
11	帝京	10:31:15	順天堂	28:41:73	立教	8	シード権	東洋		
12	早稲田	10:31:22	東京国際	28:44:79	専修	—	シード権	帝京		
13	順天堂	10:31:28	日本体育	28:47:27	山梨学院	6	シード権	法政		
14	城西	10:31:31	早稲田	28:48:58	日本体育	6	シード権	順天堂		
15	日本体育	10:33:18	学生連合	28:52:78	中央学院	6	5位以内	立教		
16	学生連合	10:35:57	法政	28:56:46	中央	5	7位	日本体育		
17	日本	10:37:14	山梨学院	28:59:59	日本	7	14位	日本		
18	立教	10:37:29	立教	29:00:00	東京国際	—	シード権	山梨学院		
19	専修	10:37:47	神奈川	29:03:14	神奈川	3	シード権	学生連合		
20	山梨学院	10:38:00	専修	29:03:43	順天堂	3	5~シード	専修		
21	神奈川	10:41:17	駒澤	29:04:37	学生連合	—		神奈川		

【箱根駅伝時の天気予報・・・12月30日現在】

概況では、寒波到来で極寒

1月2日 千代田区：-2~13℃、降水 20% 箱根町 -2~9℃ 降水 20%

1月2日 千代田区：-2~11℃、降水 30% 箱根町 -2~8℃ 降水 30%

平地は、強風が吹かなければ、絶好のコンディションになりそうです。箱根は、強風になると低体温症や脱水症状の心配もあります。

【1kmを平均3分00秒で完走すると：10時間51分18秒・・・3分02秒だと10時間58分33秒】

- 1kmの平均ペースが2秒違うだけで、7分14秒も違います。約2400mの差が付きます。
- 1kmの平均ペース3分00秒（5km15分00秒/時速20km）を観戦するときの目安にしましょう。
往路記録は、5時間22分30秒（100回の4位相当、100回往路優勝：青山学院：5時間18分33秒）
復路記録は、5時間28分48秒（100回の5位相当、100回復路優勝：青山学院：5時間23分12秒）
総合記録は、10時間51分48秒（100回の3位相当、100回総合優勝：青山学院：10時間41分25秒）
過去6回の大会のうち、優勝2回、2位1回、3位3回に相当する記録です。
- シード権獲得の目安は、10時間58分33秒です（1km3分02秒）。95回4位、96回10位、97回3位、98回10位、100回9位相当ですが、99回だと7秒差でシードに届いていません。どの大学も走力が上がっており、目安の記録も上がってくるでしょう。東洋の「1秒を削る走り」がよく分かります。